

利用環境WG(第1回)議事要旨(案)

1 日 時

平成16年3月1日(月) 16時35分から18時00分

2 場 所

三田共用会議室

3 出席者(敬称略)

(1) 構成員

堀部政男(座長)、新美育文(座長代理)、井崎直次、大谷和子、岡村久道、佐野真理子、東倉洋一、三石多門、守安隆、脇浜紀子

(2) 総務省

桜井参事官、今川補佐

4 議 題

(1) 構成員より発表

国立情報学研究所人間・社会情報研究系教授

東倉 洋一

弁護士、近畿大学・奈良先端科学技術大学院大学兼任講師

岡村 久道

よりヒアリングを行った。

(2) 事務局より説明

(1)(2)に対して、各構成員と事務局との間で以下のような議論が行なわれた。

新美座長代理

東倉構成員の発表にあったインフォームドコンセントは、プラスとマイナスを提示して判断を求めるとのことだと思いが、そのプラスとマイナスをどのように認識するかは、難しい問題。

東倉構成員

プラスとマイナスを明らかにするために、特区等の社会実験などを行なうのも一つのアイデアではないか。便利さの反面、リスクがあるということをユーザは、認知していないことが問題。

大谷構成員

東倉構成員の話は、環境アセスメントみたいなイメージだと思うが、これは、アイデアとしては面白いが現実的に難しいと思う。

事務局プレゼンにあった、10項目の課題は既に見えている危険や課題であるが、これから実現するユビキタス社会を考えるのが今懇談会のテーマである。2010年に、このようになっているという社会像をまず描き出して、共通の雛形を用意し、どのような問題が起こりうるかを議論する必要があるのではないかと。現存する以外の予見しがたいリスクについても検討していく必要がある。このワーキングの課題ではないのかもしれないが。

守安構成員

プラスの側面とマイナスの側面についてであるが、マイナスの側面は、単体で使われた時と社会全体とで使われた時の影響が違ってくる。大量につながったとき、どのようなボトルネックが生じるのかも意識することが必要。

ユビキタスネット社会は、課題の一つに影響があれば、他のすべてに影響が及んでくるという性質を持っている。この社会的な脆弱性の波及を視点に加えるべきではないか。

新美座長代理

特区制度を使つての実験というのは非常に興味深い。

東倉構成員

特区に関して言えば、規制を変えたら、こんなに良くなるということを示すことが重要。特に知的財産制度。コンテンツ流通に関しては、権利保護の問題が大きな壁となっている。

三石構成員

ビジネス立ち上げに関わっていると、迷惑メールや、ハッカー、クラッカーなどの大きなネット社会の負の問題に直面するが、特にお客様の受け止め方が重要。利用者には、プラス要素とマイナス要素の両面を、知っていただき、我々がどのように考えるかを示すべきである。マイナスばかり触れると怖じ気づくし、プラスばかり言うと疑心暗鬼になる。

佐野構成員

消費者に対して、どんな商品でもデメリットは教えてくれない。正も負もというが、負をオーバーに言ってもらったほうが良い。情報提供はきちんとするべき。

井崎構成員

プラスとマイナスのトレードオフの関係になるが、特にマイナスの方は時代と共に変わっていく。社会的価値判断を下せるように、我々が情報提供をするべき。

堀部座長

70～80年代は、ITのデメリットを口にするると集中的に非難された。これまでの経緯もあるので、歴史的な整理や検証が必要。メリットもデメリットもきちんと提示し、2010年のユビキタス社会ではどうなるのかを描きつつ、問題点を検討していく必要がある。